

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Educational attainment as a potential effect modifier of alcohol use and 100% alcohol-attributable mortality in the United States-A longitudinal analysis of mortality linked survey data from 1997 to 2018</p> <p>教育歴はアルコール使用と 100%アルコール関連死亡率の関係における効果修飾因子となりうるか：米国における 1997～2018 年の死亡連結縦断調査の分析</p>		
<b>執筆者</b>		
Probst C, Zhu Y, Kilian C, Kerr W, Rehm J.		
<b>掲載誌</b>		
Addiction. 2025 Jun;120(6):1143-1155. doi: 10.1111/add.16774. Epub 2025 Jan 27.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
不平等、不公平、100%アルコール関連死亡率、アルコールによる害のパラドックス、アルコール使用、教育歴		39868514
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b>教育歴とアルコール使用が、アルコール関連死亡の格差に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。</p> <p><b>方法：</b>1997～2018 年の全米健康面接調査 (NHIS) データを 2019 年の全米死亡インデックス (NDI) のデータと連結した全国コホートの縦断研究である。平均追跡期間は 10.7 年 (標準偏差 6.4 年)。25 歳以上の成人を対象とした全国代表サンプルである。アウトカムは 100%アルコール関連死亡までの期間であり、2019 年 12 月 31 日までに死亡していない者は打ち切った。社会経済的地位は教育歴により測定し、アルコール使用は自己申告により分類した。生涯禁酒者を基準群とした。本研究では、加法的な相互作用は、絶対的なリスク差の尺度を提供するため、公衆衛生介入や臨床意思決定、保健計画および政策に重要と考え、加法性相互作用に焦点を当て、アーレンの加法ハザードモデルとコックス比例ハザードモデルによる交互作用により相対的過剰リスク (RERI) を示した。</p> <p><b>結果：</b>対象者 562,632 名のうち、追跡期間中に 901 名 (男性 635 名、女性 266 名) が 100%アルコール関連死で死亡した (10 万人年あたり 15 人)。教育歴が低く、かつ Category III 飲酒 (男性 &gt;60g/日、女性 &gt;40g/日) の者において、加法ハザードモデルによる交互作用効果は 10 万人年あたり 83.68 件の追加死亡 (95%CI: 16.48–150.87) であった。Cox 回帰モデルに基づく交互作用による相対的過剰リスク (RERI) は 32.05 で有意だった。教育歴が低い者では、高飲酒量に伴うリスクは加法尺度と乗法尺度の両方において、教育歴が高い者の 2 倍であった。</p> <p><b>結論：</b>米国では、教育歴が低くアルコール消費量が多い者は、他の群と比べて 100%アルコール関連死亡のリスクが高い。教育歴と飲酒行動の組み合わせによる影響を考慮した公衆衛生介入が求められる。</p>		